

令和6年度第1回下関警察署協議会会議録

開催日時	令和6年7月11日（木） 午後3時30分から午後5時15分までの間	
開催場所	下関警察署5階 講堂	
出席者	委員	村田委員、宇原委員、城石委員、伊藤委員、柳川委員 石津委員、中村委員、山田委員、旦委員、久保委員 杉本委員、福山委員、村尾委員  計13人
	警察署	署長、副署長、地域官、刑事官、交通官、生活安全官 警備官兼警備課長、主幹、警務課長、警察安全相談課長 留置管理課長、生活安全課長、地域第一課長 刑事第一課長、刑事第二課長、交通捜査課長、外事課長 計17人
議題	1 業務説明 2 諮問事項 「警察職員採用募集活動の推進」	
<p><b>1 会長挨拶</b>          本日は会議に出席していただき、誠にありがとうございます。          一昨日までは太陽がさんさんとして35度近くまで気温が上昇し、「熱中症に気をつけて」と注意喚起がなされていたが、一転して昨晚からは大雨が降りだした。下関市の観測史上最高を上回るほどの雨量だとニュースで報じられ、災害も発生したようである。これから雨が降り続けるとのことであるので、皆さんも十分気を付けていただきたい。          令和6年度になり、署長をはじめ幹部の方々には新しい顔ぶれとなったが、今後ともよろしく願います。          本日の諮問事項は、警察職員採用募集活動の推進についてである。警察官は、交通事故をはじめ、いろいろな業務があり、災害発生時にも一生懸命働いてもらっている。その警察に新しく人が入らないと、我々市民の安心や安全、財産を守ることができなくなるので、皆さんと一緒に考えていきたいと思う。</p> <p><b>2 署長挨拶</b>          （省略）</p> <p><b>3 業務説明（署長）</b>          以下の項目に沿って説明した。          (1) 当署の体制等          (2) 犯罪情勢          (3) 人身安全関連事案</p>		

- (4) 組織犯罪関連事案
- (5) 交通事故対策
- (6) 警備諸対策の推進

#### 4 諮問事項説明（警務課長）

以下の項目に沿って説明した。

- (1) 採用試験制度
  - ア 山口県警察職員採用試験区分
  - イ 「応募者数増加」に向けた制度改正
  - ウ 「多様な人材確保」に向けた制度改正
- (2) 若手職員の意識
  - ア 受験に当たり影響を受けた人は？
  - イ 採用試験は、何で知りましたか？
  - ウ どういうイベントに参加したい？
- (3) 採用募集活動の推進状況
  - ア 広報内容
  - イ リクルーター制度
  - ウ 具体的な活動事例
    - ・ 警察本部主導の取組
    - ・ 警察署主導の取組
    - ・ SNSを活用した広報
  - エ 県警全体としての取組
    - ・ 働きやすい職場環境の整備
    - ・ 女性活躍
    - ・ 休暇の取得、時間外勤務の削減

#### 5 協議

##### （委員）

私は、コロナ前から、唐戸市場でアルバイトをしている大学生が社会に出てもやっていけるように、異業種の若い社長などを集めて食事会を開催している。また、話すきっかけや話すチャンスがないので、唐戸市場の3階で料理教室を開催し、その後食事会をするなど、コミュニケーション作りに取り組んでいる。

水産大学の学生も皆が水産関係の会社に入るわけではなく、いろいろな業種に興味があり、警察官に興味がある人もいると思う。ただ、警察官を志望しようと考えていても、警察官から直接話を聞くチャンスがないのではないかと思う。秋にも同様のイベントを開催する予定があるので、警察の方も参加してはいかがか。

##### （委員）

私には就職したばかりの娘が二人いるが、就職先を選ぶ際、給料よりも「休みが取れるか、終業後に早く帰れるか」を重要視していた。私たちの世代と全く違うので、働き甲斐よりもワークライフバランスについてきちり数字で示さなければならないと思う。

ところで、公務員の中途採用はどうなっているのか。

また、柔道や剣道以外にも、サークルやクラブ活動から人材を引っ張るといえるのはどうか。

##### （署長）

現在、採用年齢の上限を上げ、幅広い年齢層からの採用を行っている。情報処理やサイバー関係などの職歴のある方も募集している。

サークルやクラブ活動については、県警察が主体的に組織しているものはないが、個人が趣味で行っている活動はある。

**(委員)**

警察に採用された場合、女性も含めて必ず全員警察学校に入るのか。女性も柔道や剣道をするとすれば、少しハードルが高いのではないか。

テレビ番組では、警察学校の怖い教官を題材にしたものもあるが、採用を考えると、イメージの上がるような番組の方がいいと思う。

医療現場では、専門職になるほど応募がない。職業安定所にも求人を出しているが、若い方々は職業安定所ではなく、専門の斡旋業者を通じて来てもらうことが多い。高い仲介料が必要である反面、民間の斡旋業者は丁寧に労を執ってくれるので、警察も民間に委託することを検討してはどうか。

**(署長)**

女性も警察学校に入って教養を受けることとなっており、柔道か剣道のどちらかを選択して訓練を行っている。

現実の警察学校は、テレビドラマのようなことはない。

**(委員)**

私は建設関係の仕事に携わっているが、警察官も建設業と同様、職業の選択肢にする若者が減少していると思う。警察は特殊な仕事であり、時間どおりに帰宅しては犯罪を取り締まることができないなど、様々な理由により、希望者が減っていると考えられる。

時代になじまない職業になりつつあると思うので、志望者が減少している原因を究明しない限り、今後の採用活動も難しいままではないか。

**(署長)**

就職人口が少なくなっている中、いかに警察官を選択してもらうか、あらゆる方法や施策について知恵を出していきたいと考えている。

**(委員)**

私は警察ドラマや映画が大好きでよく見ているが、若者はテレビを見るのが少なくなり、それに代わってSNSを見るが多くなっている。TikTokをはじめとする各種SNSを活用しつつ、警察官に興味を抱かせる動画など、募集活動につながるものを製作してみてもどうか。

**(署長)**

昨年からYouTubeを活用して警察官募集活動に関する動画を配信しており、Instagramでも募集活動の広報を行っているが、今後は今以上に良いものを作りたいと考えている。

**(委員)**

警察官は、勤務時間や拘束時間が長いことが不評だと思う。

また、組織も階級社会で上下関係がきちりしているのも、なかなか自分の意見が出せないことも採用活動を困難にしているのではないか。意見の出しやすい環境を構築することも大切だと考える。

**(委員)**

18歳以下の人口が減少する中、山口県に移住する者が、令和5年

度で4,300人も増加している。そこで、警察官の受験資格を緩和、特に年齢制限を39歳まで引き上げてはどうか。40歳から勤務するとしても、65歳定年であれば25年勤務することができる。

山口県に移住し、海や山などの自然と触れ合い、のんびり暮らしながら警察官として働くことができると、山口県に移住を希望する者に対して積極的に情報発信してはどうか。

また、教員試験と同様、一次試験の会場を山口だけにするのではなく、例えば中国5県合同で東京、関西、九州に設けるなど、受験しやすい環境を整えることも重要だと考える。

## 6 配付資料

下関警察署協議会会議資料  
業務説明資料

## 7 その他

次回会議は、令和6年11月中に開催予定とした。